

# 山行報告

## ◆八ヶ岳スノートレッキング

日程 2月25日(土)～2月27日(月)

参加者 L: 砂川(延) 他 8名

山行記録



1日目	コース	高砂駅 ⇒宝殿駅⇒養老インター ⇒ 高遠 ⇒ 杖突峠 ⇒ すばる着					
	時間	8:30	9:00	12:00	16:00	16:30	17:30
2日目	コース	出発～横岳ロープウェイ下駅～ロープウェイ山上駅発～五辻～縞枯山頂					
	時間	9:00	9:20		10:00	10:40	12:10
	コース	～横岳ロープウェイ山上駅(昼食)～山上駅発～すばる着					
	時間		13:20	(80)	14:40	15:30	
3日目	コース	すばる出発⇒霧ヶ峰P～車山山頂～霧ヶ峰P～(途中昼食)～宝殿着					
	時間	10:10	10:50	11:30	12:30	(30)	21:00

## ● 【感想文】 原田(勝)

明日の天候を心配しながら、9時に宝殿駅前を9名が乗ったレンタカーは長野へと走る。途中、休憩を取りながら、やがて中央自動車道方面へ進む。まずは2191mの恵那山が右手に出迎えてくれ、左手には御岳山、長いトンネルの向こうは赤石山脈の3000mの山々が冬山の威容さを誇って見下ろしている。

あまりの光景に座光寺PAで写真撮影をし、右から茶臼、上河内、聖、赤石、荒川、東、塩見、間ノ、北、仙丈、甲斐駒と連なるさまは言葉に尽くしがたく、何回もシャッターを押す。

20km先の駒ヶ岳SAでも車を止め、目前に迫る駒ヶ岳、空木岳を見上げ感動する。途中コヒガンザクラで有名な高遠に立ち寄るがそこでは、仙丈がダム湖の後ろでそびえ、ますます気が高まる。杖突街道の峠からは、八ヶ岳連峰と車山が眺望できた。右から編笠、権現、赤岳、横、硫黄、根石、天狗、丸山と、八つの峰が連なる。峠を挟んで茶臼、めざす縞枯、横、蓼科、なだらかな車山と続く。なんたる展望だろう。

あまりのうれしい寄り道に四季の宿『すばる』に到着したときは薄暗くなっていた。明日へのために風呂へ入り、筋肉を和らげる。うまいフランス料理とワイン、自家製のリキュールに舌づつみをし、おおいに語り飲み、明日を夢見て寝る。

翌朝、雪明りに起こされ、自家製のパンをいただき、初めてのスノートレッキングに出発した。小雪が舞う中を2200mのロープウェイに乗り、約8分の空中散歩で山上駅に到着。コンパスで目的地を確認後、予定コースを歩く。最後尾だったせいか以外にもうまく歩けた。40分で五辻の分岐道標がある地点着いた。その先は足跡がなく、色あせた赤いテープだけが頼りであるが、半分雪に埋もれ判り辛かった。もう3mも積もればどこでも歩けたのだが、と思いながら行くと尾根つたいの道とであった。針葉樹林のシラビソがとぎれると、すごい暴風であり、とにかく縞枯山へと急ぐ。顔に当たる雪が痛く、前は見づらく、やっとのことで殆ど雪に埋もれた縞枯山山頂の道標を確認した。今度は急な下り坂で、スノーシューを外しリュックへ収める。かかとを立てて下るが、すべったり、ころんだり……。谷へ降りると樹木がないせいか、もっと風がきつく、ブリザートもいとこだ。足速に歩き、山小屋にも立寄らず、とにかく山上駅へと急ぐ。30分間が長く思えた。雪をはらい、2階の休憩所でポットの湯で雪を溶かしてお湯を沸かし、おにぎり、ラーメンとコーヒーで暖をとる。落ち着いた頃をみはからってロープウェイに乗るとガイドのおじさんがすごく植物に詳しい方で驚いた。下の駅は雨で500mの標高差の違いを感じた。

宿に着き凍えた身体を湯舟へしずめると、幸せ感がよみがえってくる。明日こそ好天に恵まれるようにとお神酒をあげる。

朝日か?と思われるような明るさで目覚め、木造りの食堂へ行き外を眺めると、コガラ、シジュウカラ、アトリなどの野鳥が餌をついばんでいた。とても和やかな光景であり、今日の行動は間違いなしと思えた。宿の主人に案内され、車山へとむかう。5月には新緑がまぶしいカラマツの林から木漏れ陽が根雪へ跳



ね返る。やがて好天のめざす車山は、なだらかな山で、夏にはニッコウキスゲがすばらしいが、今は雪が冠りなだらかな山なので30分で頂上に着くとそこはすべてのアルプスのパノラマだ。北は白馬こそ見えないが、五竜・鹿島槍・剣・立山、野口五郎・槍・穂高、乗鞍、御嶽山、甲斐駒ヶ岳・仙丈・北岳・塩見、富士山、八ヶ岳連峰、最後は噴煙を上げている浅間山と言い尽くせないパノラマが広がっている。記念撮影のあと後ろ髪を引かれる思いで下山したが、残念なことに、車山頂上には大きなアンテナの建物が居座っていた。

昼食は霧が峰高原の駐車場でお湯を沸かし、おにぎりとおカップラーメン、コーヒ

ーで感情がたかぶっている身体にエネルギーを注ぎ、諏訪湖へと車は高度をさげる。ハイウェイ諏訪湖で山に別れを告げ、駒ヶ岳SAで冬山の光景を脳裏におさめ、長良川を渡るころは夕日を受けて無事帰ってきた。今回の計画を立案してくれた人、また、砂川さんありがとうございました。

### ●【八ヶ岳スノーシュートレッキングの感想】 舛賀

**2月25日** 春を思わせるような暖かい日和、定刻通り宝殿9時出発、中国道・名神走行。養老インターにて昼食を摂り、そして中央高速にて左側伊那山、前方南アルプスの白く輝く冬山景色を車中から楽しみながら152号線(旧道)に入り峠の茶屋で小休止。八ヶ岳、諏訪湖を一望して蓼科高原ピラタスの丘四季の宿(すばる)に着く。温泉にゆっくり浸かりフランス料理でワインにてカンパイ(∩o∩)。

**2月26日** 心配していた雨も小雪に変わる。手作りパンの朝食を摂り9時(ペンションすばる)に出発。ピラタス横岳ロープウェイを利用し山頂駅坪庭(2237m)へ。これから山行する方向をコンパスと地図で各自確かめ、スノーシュー装着し10時出発。降り積もった新雪の上でもスノーシューを履くと面白い様に快適に歩けるのが不思議、少し下り樹林の中を歩くこと約30分[2k]、五辻で小休止。そしてコンパスにて方向を確かめ茶白山に向って登り(約150m)、展望台がある稜線に出る。立って居られないぐらい猛吹雪の中、コンパスで確かめコース変更し縞枯山に向う。山頂(2403m)12時着、強風と吹雪で食事どころではなくスノーシューを外し、急な下り坂を下山。雨池峠から坪庭、ロープウェイ駅に13時30分全員無事に着く。駅構内にて雪を溶かしてカップラーメンとおにぎりでお昼を食べながら冬山の厳しさを話し合う。宿すばるに帰り温泉に浸かりフランス料理に舌鼓、夜は女性軍の楽しい話し声、男性軍は酒や酒やと晩くまで。



車山山頂から八ヶ岳連峰を望む・・・画面右には富士山がクッキリと





**2月27日** 朝霧や見え隠れする横岳を見ながら手作りパンで朝食を摂り、宿すばるを10:10 出発。白樺スキー場付近から樹氷の花を車中より見ながら霧ヶ峰高原に着く。スノーシュー装着し、宿すばる主人のガイドで車山(1925m)に登る。澄みきった青空、ピカピカ冬山(八ヶ岳、富士山、南アルプス、中央アルプス、御岳山、乗鞍岳、北アルプス、槍ヶ岳、浅間山)、冬場の好天気しか見られない日本の峰々を一望でき最高でした。

冬山の厳しい体験とゆったりした日程で愉しく雪と遊ぶことができ有難う。全員無事22時頃帰宅、砂川さん運転ご苦労さんでした

### ◆寒河 天狗山

日時 平成18年3月5日(日)  
参加者 L:砂川(延) 他17名



#### 【感想】 宇高(良)

昔、天狗が住んでいたという言い伝えがある 天狗山。高御位の岩とは比較にならないが いきなり見えたおおきな岩。明治の頃、大阪の米相場を伝えるための 旗振り台があった山らしいが あの岩の上で旗を振ったのだろうか？  
大きな岩のある頂上は 大勢の登山者で賑やかだった。連なる山並み、瀬戸内にはたくさんの島、頂上の眺望はすばらしい。春を待ちかね 出かけた天狗山、久しぶりにいい汗をかいた。おまけに牡蠣のお好み焼き。どの店も行列のできるお好み焼き屋だ



。店を探して歩いている時 地元のおばあちゃんと喋った。「地元の人 はあんまり食べんよ」と言って 海鮮の美味しい食堂を教えてくれた。でも 行列に並んでやっぱり食べた。

初めて食べた「かきおこ！」は とても とはいえないけど 美味しかった。余計なことだが「かきおこ」は醤油で食べたほうが美味しいかも？

今日の山行は「かきおこ」を食するのがメインだった？とか、ということを目にし、店を探し回り 行列に並んだことを納得？する。大勢での山歩きとなり これもまた行列に並び気楽に歩き、久しぶりに歩く私にはタイミングのいい山行だった。歩いている途中に、「大勢で歩くと皆が登山客？の様になる」らしきことをぼやいていた会長の言葉が頭によぎるが……………。

もうひとつのおまけはこの 感想文！これはやっぱり美味しくはなかった。

### 行動記録

場 所	着時刻
J R寒河駅	9 : 5 7
出 発	1 0 : 1 5
神社前	1 0 : 2 0
頂上まで1.2k m	1 0 : 4 5
第1ピーク	1 1 : 1 5
山 頂	1 1 : 2 5
出 発	1 1 : 4 0
三ツ池	1 2 : 4 0
出 発	1 2 : 5 0
日 生 駅	1 3 : 5 0



今日、山行の思い出を振り返ると、やはり「かきおこ」を食べたことが一番の思い出だ。大勢で歩くと皆が登山客？の様になる、らしきことをぼやいていた会長の言葉が頭によぎるが……………。

## ◆大峰山 折立から玉置神社～熊野大社

日 時 3月18日(土)～3月20日(月)

参加者 L:砂川(延) 他6名

行動記録(大峰山 折立～熊野本宮)

### 【感想文】六人の侍+1 大峰奥駈道を歩く 河合(信)

この3月に高御位山遊会に入会させてもらい、3月5日(日)の天狗山が初めてのグループ山行でした。

「大峰山を登る」計画を聞いた時には、私にはまだまだ先のことで、体力的に一日10時間も歩く事は出来ないと思っていました。

山の歩き方・天候・装備などについても何一つとして知識も技術も持たない私が参加を決意したのは、山の哲人(鉄人)砂川さんが「大丈夫 歩けますよ」と声を掛けて下さったからです。

行程の天気予報では3月18日(土)午後6時から雨・翌日は降水確率50%となっていました。

JR加古川駅前に集合して8:30 レンタカーで出発、奈良県十津川村へ。

折立登山口からしばらく舗装した登り道を歩くと、左斜面の雑木の中に猿の姿を見つけ、こんなに人家に近くことまで降りてきていることに複雑な思いがしました。いよいよ杉の木立で薄暗い道を一步一步踏みしめて登る、ひたすら登る、玉置山を目指して。

熊笹が地面を覆う杉山の斜面で原田さんが「5メートル下、前方にニホンカモシカ！」と低い声で囁くように教えてくれる。

みんな立ち止って、目を凝らし静かに原田さんが指さすほうを見ると、そこにニホンカモシカが動かずじっとこちらに顔を向けている、大自然と・野生との接点に自分が居ることに感激しました。

標高差940mを平坦な所も下りも無く、ただ登り続け玉置神社に到着した時はかなりしんどかった。

神社に泊めて頂いたので、テント泊の経験の無い私にはラッキーでした、夕食はおいしい“おでん”をお腹一杯に、そしてお風呂まで頂いて有難かったです。その夜は雨脚が強く翌日が心配でした。

でも3月19日は雨も上がり6時20分に厳かな玉置神社を出発しました。

気温がかなり低く山を歩くのに汗をかかずに良かったのですが、尾根に出ると谷から吹き上げる強風に体が揺れることもありました。

大森山への途中、視界が開けて神々の山々が連なり、その先に熊野灘？が陽光で光っていました。大きな、なにかに包まれている私が自らの脚でそこに立ってる居ることを喜んでいました。

場所	着時刻 (発時刻)
加古川駅前	(8:30)
折立・駐車場	13:30
登山口	14:20
玉置神社	17:00
2日目 玉置神社発	6:20
大平田山分岐	7:55
大森山	8:20
五大尊岳	10:15
吹越峠	11:25
大黒天神岳	11:55
七越峰	14:35
大日越熊野古道	15:25
湯峰温泉あづまや	16:50
3日目出発	(9:00)
加古川駅前	21:00





五大尊岳から大黒天神岳に至る途中では、かなり歩き辛い下り坂がありましたがなんとか頑張りました。

先頭の砂川延也さんは、リーダーとして今何を考えているのだろうか?と思いながら後姿を見て歩きました。

黙々と同じペースを守って歩く・姿勢が全く崩れない・疲れることを知らない鉄人である。技術的に必要な所ではワンポイント・アドバイスを出してくれる。絶えずコンパスと地図で現在地と進むべき方向の確認をしながら、山との会話を楽しんでいる様に見えて、山を敬愛している気持ちが伝わってきました、正に山の哲人である。

二番目は金島トミ子さん、三番目は待場節子さんと共に入会してから1年とのこと、私より思いが強く背負っているのにへこたれず、小休止の後スタートする時に金島さんの「**レエッツ GO!!**」の掛け声が元気にしてくれました。

四番手の私を挟んで五番手がダンディーな小谷昌宏さん、この方も山の経歴は浅いとおっしゃっていたが、コンパスと地図を駆使しておられたので私もそれが出来るようになりたいと思いました。

六番目はベテランの今山正雄さん、メンバーに対する気配りと余裕の山歩きをされていた。吹き上げる風の音しか聞こえない山中で今山さんと原田さんの会話の音が、前進するエネルギーになりました。初心者の私に色々配慮してくださり有難かったです。

最後尾の原田 勝さんは知識の宝庫である、樹木・鳥・花など全ての事に幅広く精通していて、対応できる魅力に引き付けられました。

体力的にもすごく、何処にあのパワーが潜んでいるのか?驚かされました。

大黒天神岳から吹越山・七越峰・熊野本宮に至るまで歩きました。でも18日・19日共に山歩きの人に一人も出会わなかった事が不思議です。

まだこれから湯の峰温泉への道を歩かなければなりません。

バス道 or 熊野古道の選択がありましたが、熊野古道を進むことになりました。距離はバス道よりは短いのですが、登りの急な階段道を歩いて湯の峰温泉に到着した時の達成感は、筆舌に表せない深いものでした。

民宿の「温泉」で手足を伸ばしながら思ったことは、みなさんと一緒だったからこそ10時間余りの

行程を歩けたこと・目的を一にして同じ時を過ごした連帯感・ポジティブに生きているメンバーに魅力を感じたことでした。

表題の六人の侍+1を七人侍と書ける様にレベルを上げていきたいと思っています。

有難うございました。

